

地球地図整備がアジア太平洋地域で支持された



30ヶ国と3つの国際学術機関から159名が参加し、第14回国連アジア太平洋地域地図会議がタイのバンコクのESCAPビルディングで1997年2月3日～7日開催されました。

この会議は、各国の地図作成活動を促進し、技術情報を交換し、地図作成を通して国際協力と経済、社会的開発の討議を行うために3年ごとに開催されてきました。参加者はこの会議で、共通の必要性、測量・地図作成、海洋・河川・湖沼環境、リモートセンシング、GIS等の分野での一般的必要性、問題点、経験について討議しました。

開会式で、国連事務次長のジン・ヨンジャン氏の声明が伝えられ、そのなかで1996年11月にサンタバーバラで開催された環境に関する多国間宣言実施のための地球地図国際セミナーと、アジェンダ21の実行のための地球地図に関するサンタバーバラ声明について触れました。会議の最後に、技術移転、データセットの調和と標準化、非政府機関の役割と関わり合いや、アジェンダ21の実行の促進に関するすべてのその他の課題に焦点をあてた20の決議が採択されました。20の決議には、地球地図フォーラムの設立、担当部署の設立、この地域の空間データ基盤との協力が盛り込まれた“地球地図の整備”に関する決議が含まれています。

第14回国連アジア太平洋地域地図会議決議

地球地図の整備

会議は、地球地図の整備は全地球空間データ基盤(GSDI)の概念を実現するものであることに注意し、地球地図国際運営委員会(ISCGM)等の国際的な専門家集団の参加が、地球地図整備には不可欠であることにも注意し、国家的、地域的な空間データ基盤のグローバルレベルへの統合が地球地図の作成を促進するものであることに留意し、首尾一貫した仕様を持ち、品質が保証され、一般にも利用でき、安価で配布される地球規模の地理データセットの集合である地球地図が、地球環境問題の理解、自然災害の軽減、社会の改善及び持続可能な開発の下での経済成長の実現のためには不可欠であると認識し、地球地図の整備は、アジェンダ21の実施に向けて、測量、地図作成からの重大な貢献をなすことも認識し、

1. アジア太平洋地域の各国政府が、ISCGMの支援と国連との緊密な協力のもとで、地球地図整備への参加を熟慮するように促し、
2. データ作成者及びユーザーによる地球地図の整備を促進するための地球地図フォーラム及びインタ

ーネット及び他の伝達手段によるユーザーのバーチャルなフォーラムの設立を勧告する。

3. また、このようなフォーラムの創設を促進する第1段階として、国家地図作成機関(NMO)のなかに担当部署を設立、維持することも勧告する。
4. さらに、地球地図と様々な地域的な空間データ基盤、特にアジア太平洋GIS基盤常置委員会のアジア太平洋空間データ基盤(APSDI)との共同、協力の強化を勧告する。

(バンコク、1997年2月3日～7日)

地球地図国際運営委員会第2回会合決議



地球地図国際運営委員会(ISCGM)第2回会合は1996年11月16日、サンタバーバラ・セミナーのすぐ後に開催されました。本会合の決議は、ニューズレターの前号に掲載できませんでしたが、以下の通り合意されました。

.....

地球地図国際運営委員会(以下「委員会」という。)第2回会議は、環境に関する多国間宣言実施のための地球地図セミナーの討議に引き続いて開催された。このセミナーは1996年11月13～16日の間、米国カリフォルニア州サンタバーバラで開催された。セミナーの主要な活動は、一連の発表に加えて、サンタバーバラ声明(SBS)の起案と採択であった。委員会の主要な課題は、国家機関、地域機関及び国際機関がサンタバーバラ声明の実施のためにとるべき方策について討議することであった。委員会は、セミナーの終了後直ちに1996年11月16日の午後会合を持った。会議の参加者の討議に基づき、委員会は次のように決議する。

a) 環境に関する多国間宣言実施のための地球地図国際セミナーの参加者として、本委員会出席委員は、サンタバーバラ声明を支持し受け入れる。

b) 本委員会事務局は、サンタバーバラ声明に示された関連勧告の実施に向けた行動計画を作成するべきである。この行動計画作成の一環として、委員会参加者はいくつかのワーキンググループを設置することを勧めた。ワーキンググループが取り扱うべき種々の課題について討議したうえで、二つのワーキンググループの設置が勧告された。

1. 戦略的計画作成ワーキンググループ(座長: Mr. Francois Faucher, Geomatics Canada)

扱う課題

- ・地球地図仕様
 - ・委員会活動の優先順位付け
 - ・地球地図関連プロジェクト調査の完成
 - ・地球地図推進方策
 - ・地球地図作成に関して知識を有する国家地図作成機関の担当部署リストアップ
 - ・地球地図関連活動の調和
 - ・将来のプロジェクトについての委員会としての支持/採択の評価基準の作成(例. AFRICOVER)
2. 国連総会特別セッションへの報告に関するワーキンググループ(座長: K. Eric Anderson USGS/NMD)

扱う課題

- SBSの内容を含む報告書作成と国連への提出
- 地球地図フォーラムの計画
- GSDIとその枠組み（フレームワーク）及び地球地図へのリンクを明確にすること

ワーキンググループの討議結果と活動は、次回の委員会会議で報告されるべきである。

委員会参加者は、ワーキンググループの活動のいくつかは委員会のための戦略的計画作成に沿って行われるべきであると感じた。この戦略的計画作成は第1回会議の討議トピックでもあった。委員会メンバーはこのような計画が極めて重要であると考えており、迅速に扱われる必要がある。可能ならば、次回委員会までに草案が作成されるべきである。

c) 国家地図作成機関は、それぞれの国内でSBSに述べられ求められている概念、原則、行動を認知させるために積極的に行動すべきである。これは、アジェンダ21フォローアップの活動と国家地図作成機関及び関係機関の地球規模のデータ整備に係る活動との関係を国レベルで明確ににするようにして、達成されるべきである。

d) 本委員会は、フランス国土地理院の代表から提出されたアフリカカバー(AFRICOVER)計画の考え方を支持する。委員会は、地球規模空間データ基盤(GSDI)構想をテストする仕組みとして、この計画を見ており、今後のより具体的な提案作成を促すとともに、その提案に基づく活動の進捗を見守っていく。委員会は、この提案の作成者に、他の本委員会委員やアフリカの地図作成機関と密接に協力してこの仕事を進めるよう勧める。われわれは、本委員会事務局がこの構想を支持する手紙の原案を作成することを認める。

e) 本委員会第1回会議の決議、特にb)からe)及びg)の各項についてさらに活動を進める必要性を認め、本委員会事務局、国家地図作成機関及び関係機関がこれらの決議の実行を継続することを奨励する。

地球地図フォーラムが秋の終わりに開催される

国土地理院は、データ利用者と提供者を集めて、利用者の必要性をプロジェクトに統合するため、また、地球地図を用いた様々な利用を探求するために、日本において秋の終わりに地球地図フォーラムを開催する予定です。

本フォーラムは、サンタバーバラ・セミナーや第14回国連アジア太平洋地域地図会議で採択された決議を実現することを目的としています。

今回のフォーラムについての詳細の情報は、インターネットや、次号のニューズレターで入手可能となります。

地球地図ミニフォーラムがつくばで開催された（速報）

土地利用・土地被覆データは、地球環境問題の理解と監視、自然災害の軽減、持続可能な開発における経済成長の実現のために地球地図の重要な部分を構成しています。また、地球規模・地域規模のデータプロジェクトの現状を調査し、これらのデータを地球地図に統合する可能性を議論することは、地球地図作成を促進するために不可欠です。

このような状況で、国土地理院が主催する地球地図ミニフォーラムは、3月17日～18日つくばで開催されました。

本フォーラムの主な目的は、i) 土地利用データ整備プロジェクトの現状を理解すること、ii) 既存のデータと地球地図の調和をはかるためデータ作成法と仕様を比較すること、iii) 地球地図のために土地利用・土地被覆データの仕様を討議することです。

初日は、約70名がフォーラムに参加しました。本多博士は、地球地図のための土地利用・土地被覆の仕様案を発表しました。FAOのAFRICOVERプロジェクト、USGSのDISCOVERプロジェクト、EEAのCORINEプロジェクト、千葉大学のLCWG,AARSプロジェクトの専門家がそれぞれのプロジェクトについて発表、討議を行いました。

2日目は、異なるプロジェクト間の分類項目の比較と調和、地球地図の土地利用・土地被覆データの仕様案の有効性について事務局との間で討議を行いました。

[戻る](#)